

社会資本総合整備計画 中間評価書

令和05年01月11日

計画の名称	平塚市都市公園整備計画											
計画の期間	平成31年度 ~ 令和05年度 (5年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	平塚市											
計画の目標	<p>都市公園等の社会資本はその機能、役割のほか、災害時の避難や物資運搬の拠点等重要な役割も担っている。しかし、多くの施設は老朽化が顕著で、通常の利用に支障をきたす恐れが高まっているのが現状である。</p> <p>それらの社会資本を長寿命化計画を基に、危険度重要度の高いものから順次整備し、市民の安全・安心を確保する。</p> <p>また、ユニバーサル遊具の設置や親子で休憩できるスペース等、多様な世代の集いの場となる環境づくりの推進を通じ、様々な人や世代が、安心して自然に交流できる公園の整備を進める。</p> <p>さらに、湘南海岸公園内に、龍城ヶ丘ゾーンに整備する公園、ビーチパーク、漁港の3つのエリアを結ぶ園路を整備することにより回遊性を向上させ、各エリアの魅力を発信し、海岸エリア全体の魅力アップを図る。</p>											
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,823	A	1,823	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H31当初)	中間目標値 (R3末)	最終目標値 (R5末)
1	公園施設長寿命化計画に基づく対策を実施し、長寿命化対策済の施設の割合を0%から4%に増加させる。 総合公園長寿命化対策済施設率 (平塚市総合公園長寿命化対策済施設数 / 平塚市総合公園長寿命化対象施設数) × 100%	0%	2%	4%
2	子どもやその親世代の利用者を100人/日(整備前)から200人/日(整備後)に増加させる。 子どもやその親世代の利用者数を測定する	100人/日	150人/日	200人/日
3	市民一人当たりの公園面積を5.53㎡/人から5.54㎡/人にする。 市民一人当たりの公園面積を5.53㎡/人から5.54㎡/人にする 都市公園面積 / 都市計画区域内人口	553㎡/100人	㎡/100人	554㎡/100人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												H31	R02	R03	R04	R05			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
都市公園・緑地等事業	A12-001	公園	一般	平塚市	直接	平塚市	-	-	平塚市都市公園安全・安心対策事業	長寿命化対策	平塚市						1,052	2.67	策定済
		総合公園課																	
	A12-002	公園	一般	平塚市	直接	平塚市	-	-	都市公園事業	ユニバーサル遊具の整備、園路の再整備	平塚市						273		策定済
	A12-003	公園	一般	平塚市	直接	平塚市	-	-	都市公園事業(海岸エリア)	園路整備	平塚市						498	3.37	策定済
		みどり公園・水辺課																	
											小計						1,823		
											合計						1,823		

中間評価

中間評価の実施体制、実施時期	
中間評価の実施体制	中間評価の実施時期
A-1,A-2,A-3共に社会資本整備総合交付金交付要綱及び社会資本整備総合交付金交付金に係る計画等について（平成22年3月26日付国官第2317号）等に基づく中間評価の実施。	令和3年度末
	公表の方法
	ホームページにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	A-1 長寿命化対象施設が膨大にあるため目標値は低いが、着実に修繕・更新を実施し、目標達成をすることの見通しの確保ができた。 A-2 多様な世代の集いの場となる環境づくりを目指すユニバーサル遊具の設置推進を通じ、様々な人や世代が安心して自然に交流できる公園の整備に基づく設計及び着実な着手につなげ、期待値を上げることによって集客数の向上に結び付けた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	市民満足度向上と併せて都市公園としての機能充実と施設の耐久性を高め、計画を着実に履行し順次整備することで、その性能を現在の都市公園が求められる水準まで引き上げる道筋が立ち、市民の安全・安心の確保につながることができた。
特記事項（今後の方針等）	
中間評価の際に進捗状況に応じた最終目標値までの再検証と査定をした。今後は、最終目標値が達成できるよう事業進捗を図っていく。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	A-1（公園施設長寿命化計画に基づく対策を実施し、長寿命化対策済の施設の割合）		
	中間目標値	2%	一部遅れはあるものの、計画的に整備を行ったことにより中間目標値を達成することができた。整備を適確に実施することで、最終目標値を達成できる見込みである。
中間実績値	2%		
2	A-2（子どもやその親世代の利用者増加数）		
	中間目標値	150人/日	社会情勢の変化から変更が生じ、時間と費用を要したため中間目標値を達成できなかったが、今後は最終目標値に向けて本事業を重点的に実施することにより、最終目標値を達成できる見込みである。
中間実績値	140人/日		
3	A-3（市民一人当たりの公園面積の割合）		
	中間目標値	m ² /100人	事業開始年度は、令和4年度であり、実施していないため。
中間実績値	m ² /100人		